

岸辺福雄の思想と実践

―遊戯を基盤とした教育―

学校教育専攻
教育コミュニケーションコース

M08014G

澤田 真弓

研究の目的

元来、教育は「知」の発達のみをに向けた教育を施すことにその目的を持つのではなく、教育することの根底を為す「関心・意欲・態度」の育成にも目を向ける必要がある。言い換えると、全人格的な発展を保障するところに本来の教育の目的がある。ところが近代学制成立以降の教育の有り様をみていると、明治初期は知育を重視した展開をしていると言っても過言ではない。しかし、明治中期になると知育重視の傾向を脱して、子ども的人格形成を視野に入れた教育へ方向転換が図られる。このひとつの形が大正新教育運動である。大正新教育運動の中で、従来の知識注入型の教育に「遊戯」の概念を持ち込み、楽しさを加味した教育実践を通して全人格的発展を為そうとした教育展開がみられる。

その代表的人物に岸辺福雄（旧姓佐藤、1873～1958）が挙げられる。岸辺は明治初期から中期にかけて体育の一環として扱われていた「遊戯」に着目し、遊戯が身体の強健を目的とするだけでなく、子ども的人格形成にも大きく寄与するものであることを主張した。この遊戯指導を起点に、岸辺は座学中心であった教科学習の遊戯的教授法を考案し、子どもが授業活動に参加する中で楽しく、身をもって学ぶ新しい授業スタイルを実践した。また、口演童話家として活躍した岸辺の後期の活動をみると、彼が修身科の遊戯的指導において用いた手法の数々が活かされている。岸辺は、

その生涯において、常に現場の教師としての立場から教育を見つめ、自身が述べるように「理論を理想とした実際家」という立場を貫いた。このような岸辺の立場から見えた教育の姿と彼が求めたより良い教育の在り方は、現在の私達にも多くの示唆を与えてくれる。しかしながら、先行研究では岸辺の遊戯指導については対象とされておらず、これまで、その実際が明らかにされていない。

本論文では、「遊戯」をキーワードとした岸辺の教育活動を整理考察し、彼に一貫する教育理念及び方法を明らかにすることを目的とする。その上で、岸辺が目指した教育の在り方が今後の教育に与える示唆を導き出したい。

論文の構成

序章 研究の目的と方法

第1章 教育方法としての遊戯

第1節 学校教育における遊びの捉え

第2節 学校体育としての遊戯

第2章 初等教育における岸辺福雄の遊戯

第1節 豊岡尋常高等小学校・兵庫県師範学校附属小学校における遊戯指導

第2節 遊戯的教授法

第3節 修身と遊戯

第3章 幼児教育における岸辺福雄の遊戯

第1節 幼児教育への転向

第2節 教育としての口演童話

第3節 桃太郎主義の特徴

終章 遊戯の教育的意味

研究の概要

第1章第1節では、教育とは一見相反するよう
に思われる「遊び」を、教育の中でどのように捉
えることができるのかを概観した。この場合、異
なったふたつの立場が考え得ることを提示し、本
論文が立脚する「教育の方法としての遊び」の捉
えを明確にした。

第2節では、明治10年代から20年代、遊戯が
体育の教科内容として取り入れられた時期の学
校教育の有り様を確認し、本論文の時代背景を明
らかにした。

第2章では、岸辺福雄の最も初期の教育活動で
ある小学校体育における遊戯指導について考察
を行った。

第1節では、遊戯指導の実際を明らかにするこ
とを目的とし、岸辺の著書を資料として、a)小学
校における遊戯の位置、b)遊戯の教育的価値、c)
遊戯選択の基準という3つの視点から分析を行
った。結果、遊戯を子どもの発達段階を考慮した
教材として明確に位置付け、遊戯の中で生じる思
考過程や、共演者との人間関係からの学びを重視
した岸辺の遊戯観の特質を抽出した。

第2節においては、岸辺が考案した算術科・国
語科・修身科の遊戯的教授法に焦点を当て、教科
教育において遊戯的要素がいかに機能したのか
を考察し、自発的な学びを生起させ、臨機応変な
思考を導く要因として遊戯的要素が効果的に機
能することが明らかになった。

第3節では、岸辺の遊戯指導と修身の關係に着
目し、育成しようとする人間像を明らかにするこ
とで、岸辺の教育理念の抽出を試みた。

第3章では、岸辺の幼稚園実践と、教育活動の

一環としての口演童話活動について考察を行っ
た。

第1節で岸辺が幼児教育に転向した理由を考察
するとともに、当時の幼稚園教育の動向を概観し、
第2節以降で行う考察の背景とした。

第2節では、岸辺の口演童話活動についての考
察を行った。その中で、岸辺の口演童話は道徳性
の涵養という教育的意味が色濃く反映されてお
り、遊戯的教授法の結実した形と考えられるとい
う結果を導きだした。また、遊戯的教授が「感化・
誘導」という教育効果を持つことを明らかにした。

第3節では岸辺の幼稚園実践とそこにおける主
張を中心に検討し、岸辺の幼稚園教育が従来論じ
られてきたような体育中心の鍛錬主義にとどま
らず、修身的道徳観に基づいた強い精神をも兼ね
備えた子どもの育成を目指していたことを明ら
かにした。

終章においては、各章で行った考察の結果をも
とに5つの視点を設定し、遊戯が持つ教育的意味
への言及を行った。

遊戯を基盤とする教育は子どもの実態に合致
した教育方法であり、楽しさや興味が学習者の主
体性を維持するものとして教育の根底になくて
はならないが、さらに楽しさは学習者の工夫や思
考を導き出すことに注目した。楽しさが学習者の
能動的な活動参加を促し、自ら思考することで達
成感や効力感を得ることができる。この快感情は
次の学習に対する能動的な取り組み姿勢を生み
出すのであり、遊戯は継続的な能動的学習の成立
要件になっているのである。

主任指導教員	渡邊 隆信
指導教員	渡邊 隆信